

第4回埼玉県競輪事業検討委員会 概要

■日 時 令和4年1月28日（金） 14:00～16:00

■場 所 大宮ソニックシティビル 604号室

■出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、小原千代委員、
小沼航士委員、竹内春香委員、東角井真臣委員

■議事概要

1 会議の公開について

全ての議題について以下のとおり決定した。

非公開とすべき情報は含まれないため、原則どおり公開とする。

2 議事

（1）報告書の枠組みについて

資料1を用いて説明

【委員からの主な意見】

（小川副委員長）

・報告書のボリュームはどの程度になる予定か。また図表等を用いるのか。
→報告書のボリュームについては決めていない。図表等の使用については御要望があれば対応したい。

（小沼委員）

・包括委託受託業者の提案は素晴らしかった。提案で使用されていた来場者の分析等を報告書に反映してもらいたい。また、選手の声を報告書に反映するのか教えてほしい。
→分析結果は参考にさせていただく。選手の声を報告書に盛り込むことは可能である。

（2）県営競輪の経営、活性化、イメージアップについて

資料2を用いて説明

【委員からの主な意見】

（小沼委員）

・質問だが、①本場売上全国順位の上位1位、2位を教えてほしい。②受託場外売上について、令和2年度に全国順位が大きく下がっている要因は、まん延防止や緊急事態宣言の期間が他地区に比べて長かったという認識でよいか。③立川競輪場と開催調整をしていると伺ったが、マーケティングとして、どのように考えているのか。
→①売上の上位は、売上の高いG1レース等の開催状況によって、毎年変わっているが、

例年、小倉や京王閣は上位にいる。

②御指摘のとおりである。受託場外の売上が令和2年に落ち込んだのは、まん延防止や緊急事態宣言中に場外発売ができなかったことが大きい。

③立川競輪場との開催調整については、今まで続けられていた調整であり、実効性について少しずつ立川競輪場と話し合いを始めている。

(東角井委員)

- ・競輪事業で一番大事なのは収益を上げて県の財政に貢献すること。そのためにはイメージアップだけではなく、収益率を上げて、伸びそうな分野に投資をしていくことが重要。ミッドナイトやナイターができる設備を整備し、好調なネット発売にもっと特化すべき。カフェなどを作って客を呼び込むというのは時代錯誤と感じる。
- ・公園と競輪場の境界をなくす、バンクのフェンスをなくすということを地元は望んでいないと思う。競輪場をオープンな場所にするのではなく、反対に特別な空間、スポーツの楽しさ、エンターテイメントとしての楽しさを感じられる空間にしていく方がいいと思う。

(小川副委員長)

- ・私の子供は小さい頃、競艇場にヒーローショーを見に行っていた。競輪場もそのように子供や女性が気軽に来場できる施設になればいいと感じている。

(竹内委員)

- ・先程競輪場では怒号が飛び交うこともあった。イメージアップには、子供の遊び場などを作って人を呼び込むことも大切だと思うが、競輪そのもののイメージアップを図ることも重要ではないか。

(小沼委員)

- ・選手からもどのような競輪場にしたいか意見を聞いてほしい。

(小原委員)

- ・SDGsのような目標を掲げて、その取り組みについてアピールすることもイメージアップにつながるのではないか。競輪場に入る事業者にはフードバンクや地産地消を推進してもらったり、パラスポーツのイベントを行ったりして、それをアピールすることが、今までとは違った客層へのPRにもつながると思う。
- ・高齢化で人が減っていく中では、多くの人に参加してもらう取組が必要だと思う。一人の人が多額のお金をつぎ込むのではなく、多くの人が少額で楽しめる方がいいと思う。

(岩崎委員長)

- ・競輪のイメージアップを考えると、オリンピックに自転車競技がある中で後からケイリンという種目が追加された。公営競技の中で唯一のオリンピック種目となっており、他の公営競技とは違ったイメージアップの切り口があるのではないか。
- ・自転車競技にどのようにアプローチするかが重要だと思う。荒川堤防等にはサイクリングロードが整備されているし、県営競技事務所でも自転車教室を実施していると伺った。こどもから大人まで幅広く自転車の魅力を発信していくことでイメージを変えていくことができるのではないか。

(小川副委員長)

- ・競輪のレースを観戦したが、初心者にはレースの間隔が短く、次から次へとレースが流れていると感じた。レースとレースの間にショーみたいなものができればいいと思う。

(東角井委員)

- ・小川委員の意見に賛成である。オープンなスペースにいきなりするのではなく、競輪のイメージアップをするために、エンターテイメントに昇華させて、もっと楽しめる場所にするべきだと思う。
- ・競輪場のイメージアップではなく、競輪という競技自体を楽しめる演出をもっとするべきだと思います。

(小沼委員)

- ・レース主体だけではなく、選手主体の取組を増やしてほしい。例えば選手紹介をしっかり行うなど、選手を大事にする取組みをすれば、観客の見方も変わってくるのではないか。
- ・エンターテイメント性を高める方法として、大宮には吉本興業の劇場があるので、コラボする方法も考えられるのではないか。

(3) 中長期的な課題について

中長期的な課題について、口頭及び第2回資料により説明

【委員からの主な意見等】

(東角井委員)

- ・大宮の売上131億円のうち、本場売上は7億円と全体売上の5%程度。あとは、インターネットや場外発売の売上である。売上の構成を見ると新たな競輪のあり方が感じられる。経営的にも、そちらの方向に進んだ方がよいのではないか。
- ・埼玉県では2場開催しているが、どちらかに資本を集中した方が収益率は上がると考え

る。インターネット販売をしやすい場所に資本を集中して、例えば西武園でレースをして大宮で場外発売を行うといった形でもよいのではないか。

(小川副委員長)

- ・住宅街にあり、ミッドナイト開催が難しいということであったが、屋内型施設にすることはできないのか。また一番古い施設はどのくらいで、あとどの程度持つのか。
- 屋内施設ができないということはないが、建設費と維持管理費が高くなることが想定される。競輪場周辺にお住いの皆様には様々な面で御理解をいただいております、屋外施設でもしっかり話をすれば理解をいただける可能性もある。施設は昭和30年代が一番古い。耐震性は問題ないが、老朽化は進んでいる。

(岩崎委員長)

- ・大宮スーパー・ボールパーク構想が実現するときは大宮双輪場のエポックになる。今後複合施設などを中心に検討していくことになると思うが、施設の作り方に企画段階から県民、市民が参加するような方法を取り入れれば、競輪のあり方もより県民、市民目線になるのではないか。

(竹内委員)

- ・インバウンドの視点を持つことも重要と感じる。例えば、大宮スーパー・ボールパーク構想が実現した後の施設に、海外のトップ選手を呼ぶことができれば、地域の大きな資産となるのではないか。

(小原委員)

- ・来場者の減少や高齢化の中で、開催時間の制約がある大宮競輪場をこのままの状態で維持することは難しいと感じた。大宮スーパー・ボールパーク構想については、複合施設にした場合、経費などのコストが見合う施設であるか、よく検討する必要があると感じた。

(小沼委員)

- ・270億円の売上は、県内の企業の中でも大きな企業の部類に入る。雇用なども考えると経済循環の面で価値がある存在だと思う。そこで改めて、競輪事業は何のためにあるのか、地域とどう関わっていくか考えていくべきと感じた。

3 その他

第5回開催は令和4年3月11日を予定している。改めて開催案内を送付する。

以上